



学園花の村機関紙第91号

2016年6月3日(金)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

F 436-0079

〒331-0665

「東京オリンピックで変われ！」

有機農産物のPRを

編集長 松井道夫

平成28年4月16日(土) 13時30分〜 生涯学習センターで「エコロジーライフ研究会」の総会がありました。研究会創立15周年記念誌発刊記念の祝賀会を2月に行ったばかりなので、心を新たに出席した。

来賓の挨拶で松井市長が「海外に土産として持つて行ける物は無農薬の物に限られてしまう。だからエコロジーの皆さんの活動は大事なのです。皆さんの活躍を期待しています。」と話された。今後の活動方針の検討で、様々な意見が交わされた。その中で「農水省から、東京オリンピックに向けて、海外からのお客様や選手団の人々に提供する野菜として、有機農産物が求

められている、その有機野菜を提供品目の有無

が問われていますが、「ご存じですか。」と私が質問すると、ほとんどの人が知らなかった。しかも、マスコミ等でも目にする事はなかったように、皆、目を輝かせていた。そして今後の活動方針の話になったが、さまざまな意見が出された。エコロジーの話は、もともと人と人々に知って貰う必要がある大事な事だとの強い自覚を持ち、私たちの提供する野菜で東京オリンピック選手達の胃袋を満たし、喜んで貰おうと楽しい夢も広がってくる。そして、新たに漢方につながる薬膳料理の原料となる野菜の発掘をしようと言う話になった。

私たちは、今年、美味しい布マルチ米普及のために一大キャンペーンを張ろうと思う。

里山倶楽部の昨年の布マルチ米は、うまくできた、美味しいお米のできあがりになり、酒の肴としても味わうほどだった。今年の成果を地元の人々に自慢して、この一帯を布マルチ米の一大産地に替えようと思う。そのために今年の布マルチ米の作り方の姿勢を問われる、省

力、簡単、うまいお米、創った人々の笑顔にあふれた表情……

来る二〇二〇年の東京オリンピックでは、全世界の人々に安心・安全の為に有機農産物でお待ちなしを……という話を農水省が、遠慮がちにこつそりと関係者に打診してくる。

堂々と私たちの今使用している食品は安全ですと、宣言するのではなく、こそこそと無農薬の有機野菜を……と、その姿勢に対し、有機野菜生産者もつと声を大にして、怒りの声を上げるべきだと思う。東京オリンピックを契機に有機農産物への評価が変わる事を望み、私たちの希望としよう。

布マルチ稲作の普及と無農薬の野菜作りに、肩肘を張らずに笑顔いっぱい畑にでよう、あまりシチ面倒くさい理屈をこねる事なくおもしろいが第一と考えて仲間作りに……

※「有機農業を推進されている生産者の皆様へ」と農林水産省オーガニック農産物調査事務局から、オーガニック農産物等の生産状況に関する調査へのご協力をお願いと題する文書が平成27年11月に出されている。(松井記)

